

令和3年度SDGsチャレンジフォーラム

(概要)

令和4年3月15日、今年度の探究学習活動の集大成となる「SDGsチャレンジフォーラム(探求学習発表会)」を実施しました。附属中および高校1年生はポスターセッションを、高校2年生探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

記

- 1 目的 SDGsの課題解決に向け、社会に貢献できるリーダーを育む
今年度の探究活動の成果発表の場とする
- 2 日時 令和4年3月15日(火) 2～6時間目
(午前の部) 高校2年生探究学習委員による英語プレゼンテーション
(午後の部) 附属中・高校1年生によるポスターセッション
- 3 場所 本校体育館
- 4 対象 附属中1学年全生徒(80名)全20班
高校1学年全生徒(279名)全70班
高校探究学習委員2学年生徒(27名)全12班
- 5 助言者 筑波大学 システム情報系 准教授 高野 祐一 氏
- 6 内容

令和4年3月15日、今年度の探究学習活動最大のイベントである「SDGsチャレンジフォーラム(探求学習発表会)」を本校体育館にて開催しました。この一年間の探究活動の研究成果の集大成として、附属中・および高校1年生はポスターセッションを、2年探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

本来であれば、近隣の小中学生等に生徒たちの活動の様子を直接見ていただいたり、アドバイスを頂いた大学生らを招いて、一緒にSDGsの諸問題解決の手立てを共有するはずでした。しかしCovid_19(新型コロナウイルス)感染終息の見通しが立たない中、今年度は一部の保護者だけを招いての開催となりました。

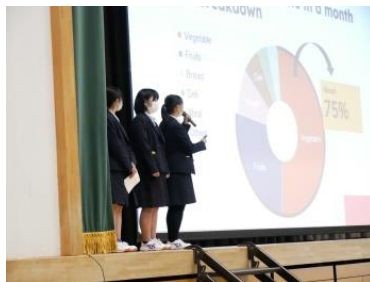


発表会の様子



中学生も積極的に質問

オールイングリッシュでプレゼン



オールイングリッシュでプレゼン



高野先生より総評

(1) 高校2年生探究学習委員による英語プレゼンテーション

午前の部では、2年生探究学習委員の生徒27名(12班)によるプレゼンテーションを行いました。Covid_19(新型コロナウイルス)感染拡大による臨時休校などもあり、今年度も国内外のフィールドワークが実施できませんでしたが、校内生徒アンケートや土浦市内における各種調査の結果をふまえ、SDGsの諸問題解決のための提案を示すことが出来ました。

また、オールイングリッシュによるプレゼンテーションに備え、生徒たちは研究成果を論文にまとめる事と同時に、筑波大学生命環境系教授 堤純氏の助言を頂いたり(2021年12月18日英語プレゼンテーション実習の項参照)、英語教員から英語スピーチの指導を継続的に受けてきました。

発表会当日、生徒たちはこれまでの練習の成果をいかに発揮し、素晴らしい英語プレゼンテーションを行うことが出来ました。発表を聞いた附属中や高校の1年生からは、研究内容についての鋭い質問が飛ぶなど、大変白熱した発表会となりました。

高野祐一准教授からは、「様々な研究結果に触れることで、勉強に対するモチベーションを上げる良いきっかけとなるという点から、探究学習発表会はとても素晴らしい企画です」と感想を頂きました。また、これから大学進学を目指す本校生に向け、「大学での勉強を楽しむために、高校生のうちに効率よく知識を蓄え、基礎的な勉強をしっかりと固めておくことが大切です」とご助言を頂きました。校内発表となってしまった本発表会でしたが、外部の方の評価を直接いただくことが出来た事で、生徒たちにとって大変有意義な発表会となると同時に、貴重な体験となりました。

(2) 附属中・高校1年生によるポスターセッション

午後の部では、附属中・高校1年生全員によるポスターセッションが行われました。4人一組90班に分かれた生徒たちは、様々な視点からSDGsの諸問題と向き合い、それぞれ独自の研究テーマを設けてこの一年間、調査・研究を行ってきました。今年度も、Covid_19(新型コロナウイルス)感染拡大による臨時休校等により、生徒たちはアンケート調査やインタビュー等の現地調査が思うようにできず、例年のような十分な調査活動ができませんでした。しかしインターネットを活用したアンケート調査など、従来にはない新しい調査手法を取り入れたり、大学生から客観的な指導を頂くワークショップ(2021年11月2日探究学習中間発表会の項参照)などの経験を積んだことで、研究成果として一枚のポスターにまとめ上げることができました。

今年度から新しく加わった附属中生たちも、地元土浦の抱える諸問題の解決に取り組んだポスター発表を行うとともに、中学生ながら高校生のポスター発表に鋭い質問をしたりと、これまでの学びを

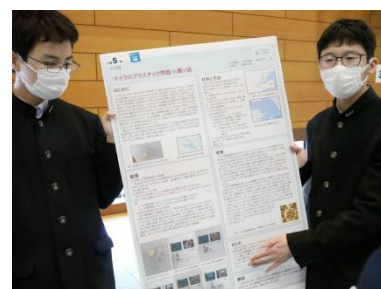
振り返りながら理解を深めることができました。



生徒実行委員が運営



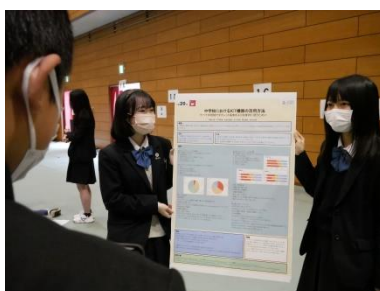
ポスターセッションの様子



ポスターにして説明



中学生も一緒に説明



他のクラスの生徒にも説明



学年主任から講評

7 生徒の感想

(英語プレゼンを終えた高校2年生より)

・今回の研究で外部の人と関わった際、ビジネスメールの書き方を学ぶ事ができた。また、プレゼンの内容を覚えたことで、新しい英語の表現に触れる事ができたり、身振り手振り、間の取り方、また緊張のほぐし方を知ることができ、とても良かった。

・私は今回の探究活動で一貫性を持って一つのテーマについて調べることを学べた。論文やプレゼンテーションの作成において、一つの問いや課題をぶれずに調べたり、まとめたりすることは意外と難しく、それを意識できたことは私の貴重な経験になった。

・論文やスライドの提出の締め切りに追われたり、英語の台本を書いて暗記するなど大変で、なんでやってるんだろうと目的を見失うこともあったが、最後に作り上がったのを見たり、発表を多くの人の前でしてみると、今まで頑張ってきたからこそその達成感や嬉しさがあった。ペアの友人とコミュニケーションがしっかりとれたことも、うまく探究が進められた理由の一つだと思う。ぜひ来年度の2年生の多くにも体験して欲しい！

・楽しみにしていた海外フィールドワークや国内視察に行くことは出来なかったが、その分自分たちの地域で積極的に活動を行えた。取材や実践活動ではたくさんの方や一高の卒業生の方と関わることができ、その都度親切に接していただいて、応援の言葉をかけていただいたことがとても励みになった。英語プレゼンテーションでは、流暢に英語を話すこと、聴衆にしっかりと内容を伝えることなど難しく感じることも多かったが、学校の授業で学んできた英語やコミュニケーションのスキルが、僅かだが着実に自分の肥しになっていると実感できたことが嬉しかった。

・プレゼンの反省点は、いべき内容を忘れて飛ばしてしまったこと。私たちからの提案のところだったので、忘れず言いたかったなと後悔した。しかし、発表会に向けてこれでもかという程、音読したことは無駄ではないので練習を頑張つてよかったと思う。今年一年の活動については、コロナのせいで思うように活動出来ず、心残りもある。しかし、英語の勉強にもなったし、パソコンの使い方も試行錯誤しながら習得できたのでよかった。でもやっぱり海外フィールドワークは行きたかった。

・探究活動を通して、以前から興味があった食品ロスについて深く調べることが出来、将来の仕事の選択肢が増えた。反省点としてはアンケートを1回実施できなかった上に、あまり多くのデータを関連づけて考えることができなかつたので、客観性のある調査にできなかったことである。

・途中、内容の変更などもあったが、無事終わらせることができて良かった。スライド作りでは要点のみをのせるようにし、見やすく、分かりやすくなるように心がけた。発表では、練習では覚えていたが本番では緊張で忘れてしまい、パニックになってしまった。今後、人前で話すことがあるときは、暗記は勿論のこと、人に見てもらおうなどして緊張への対策もしたい。

・私は、一年の時の探究活動がうまくいかなかったので、今年も探究に取り組んだが、なかなかうまく進まず大変だった。でも、なんとか英語プレゼンまで完成させることができ、達成感を感じられた。1年間有意義な経験ができて良かった。

・緊張して言葉が出てこなかったのは仕方なかったが、自信のなさから声が小さかったり、抑揚が上手くいかなくなったりして思うように伝えられなかった。また計画的な分担ができず、ギリギリになって急いでレポートなどを仕上げるが多かったのも改善すべきだった。

・結論にたどり着けるように3ヶ月ほど余裕を持って計画を立てたが、休校により思うように探究が進まず、全ての活動を終わることができなかった。しかし、早くからインスタやホームページを立ち上げていたことで何とか結論まで持っていくことが出来たので良かった。役に立つかは分からなくても、とりあえず何かやっておくことは大切だと学んだ。

・暗記をしようと直前まで頑張ったが、いざ本番となると少し失敗してしまって残念だった。でも少し違和感が残ったが、どうにか立て直して良かった。1回嘔吐と焦って色々分からなくなってしまうので、練習でもっとスラスラ言えるようにしておくことが大事だと改めて思った。内容としては、時間が足りなくて削った部分を高野先生にご指摘いただいたので、もっと上手な時間の使い方を考えられたらいいと思う。コロナの影響でいろいろと予定が変わってスライドや論文の締切が変わったことで、自分たちの計画もコロコロとしてしまい、焦ったりしたから、時間に余裕があると思っても、油断せずに出来ることは先に先にやっていくべきだった。海外だけでなく、国内フィールドワークも制限が多くて残念だった。せっかくなら皆でどこかに行きたかったが、それでもこのメンバーで活動できて、いい刺激を貰えたり、色々なアドバイスを貰えたりして嬉しかった。

・計画通りに行かないことがあって大変だったが、なんとか最終発表までまとめられて良かった。この探究を通して何かを研究するというだけでなく、自分の英語力、プレゼン力など様々なことが試されたことで、色々な面において成長することができた。特に、英語でプレゼンをする上で喋り方やスライドの作り方など様々な点において、聞く人に伝わる工夫をするのが大変だった。また、貧困を解決するために多面的に問題を見ることが重要であると感じた。本番の発表では、中学生が自分たちにはない視点でたくさん質問してくれたことによって、まだまだ知らないことがあると感じた。この探究活動は一旦区切りがつくが、もっと自分の興味を持ったことを調べたいと思った。

・海外に行きたかったが、行けなくなったので残念だった。でもペアで国内で出来る範囲で協力し、一つの発表を作り上げられたのは良い経験だった。人前で発表するのは得意ではないが、練習を重ねて最後は楽しんでできたので良かった。全体的に1年間楽しんでできたので良かった。

・国内外の事例を調べたり、アンケートを取ったりと食品ロスの現状を詳しく調べることでテーマへの理解を深めることができた。それを基に課題の解決方法をより多くの人が実践できるものにするの

が難しかった。また予定していたフィールドワークでのアンケートを実施できなくなるなど、コロナウイルスの影響で計画変更があったが、班のメンバーと話し合いを重ねることでなんとか形にすることができた。また他のグループの発表を聞いて斬新なテーマ設定や工夫の凝らされた提案などが多くあり、身の回りの様々な問題を多面的に知り、理解を深めることができた。探究学習は大変なことも多かったが、普段関わることのない人と関わる機会が増えたりなど、多くの貴重な体験をすることができた。これらの経験をこれからの生活に活かしていきたい。

・探究活動の最終目標であった今日の探究活動発表会だったが、正直に言うと満足はいく出来ではない。たくさんの人の前で、英語のみを使って自分の研究について説明するのは非常に難しかった。しかし、これからもグローバル化が進展していこうこの時代に、英語で人にモノゴトを伝える能力は大切である。だからこそ、ここで諦めず、これからも積極的に挑戦していきたい。

・私は発表を通して改めて自分たちが一年間費やしてきた探究活動の内容を整理することが出来、後輩たちに探究活動がどのようなものなのかを伝えられて良かった。しかし反省点としては、話し方に抑揚をつけられなかったことである。その点については、もっと練習したかった。また、この一年間探究活動に取り組んできて、海外こそ行けなかったものの、企業の方との ZOOM や土浦市役所へのインタビューなど、探究活動をしていなければ出会わなかったであろう人に出会うことが出来、経験できなかったであろうことを経験できた。大変なこともあったが、やってきて良かった。

・当初考えていたよりも、内容を完璧に裏付けるエビデンスを用意することが大変で、論文作成で完全に理詰めすることが難しく、自分の意見や推定が多分に入った論文になってしまった。また酒の文化的観点やメリットについて合理的に否定できず、根本的に否定する論調になってしまい、共感を得られにくかった。1年間の探究活動を通じて友人との議論を活発に交わすことができ、自らの主張を形にし、不格好でも完成させられた経験は、今後の活動に活きると思う。

・今年は夏休み後の1ヶ月の休校があったものの、こういった研究を計画通りに、1年以内にまとめるということが非常に難しいと分かった。自分は考えが偏ってしまいがちだったので、グループの人たちや今までの発表を聞いてくださった人たちがアドバイスをしてくれたおかげで、自分の視野を広げられた。また発表ではもっとも伝えたいことを簡潔に伝えることの難しさが分かった。この経験が将来の糧になると思う。